

第2回防府市農福連携検討会議 会議録（要旨）

■開催日時・場所

令和4年3月22日(火) 午後3時から午後3時40分まで
防府市佐波公民館 集会室

■次第

- 1 農福連携の推進について
- 2 その他
 - (1) 次回の協議事項
 - (2) 次回の開催日について

■出席者名簿（敬称略）

【区 分】	【所属団体名】	【氏 名】
会 長	防府市愛光園	伊南 孝之
副会長	デイサービスセンター 新田の楽さん家	森 泰樹
委 員	心促福祉作業センター	能野 伸治
委 員	夢かれん	津田 隆志
委 員	デイサービスセンター おおひらの里	河田 珠美
委 員	切畑ファーム	原田 道昭
委 員	山口県農業協同組合防府とくち総括本部	久門 浩之

■会議録

議事 （防府市農福連携検討会議設置要綱第6条により会長が進行）

防府市審議会等の設置及び運営に関する要綱第6条の規定により本検討会議を公開し、要約した会議録を公表する。

議事 1 農福連携の推進について

【事務局説明】

本市では、農福連携防府モデルを、令和5年度からスタートしたいと考えている。そのため9月末頃までには、予算計上をするにあたり、基本的な取り組み方針を決める必要がある。令和4年度は、9月末までに4回程度検討会議を開催して方針を決定し、令和5年2月、3月はスタートに向けての準備、詳細を詰めていきたい。タイトなスケジュールとなるが、委員の皆様には協力をお願いする。

第1回防府市農福連携検討会議において、障害福祉分野での現状と課題として、スケジュール調整の課題や、サービス提供時間との調整のため、長時間作業が困難であるという課題が挙がり、ニーズとして、工賃向上の取り組みが挙げられた。

高齢福祉分野では、サービス提供時間の中での作業のため、短時間での作業となること、

熱中症のリスクなど高齢者の体力や精神状態への不安という課題と、高齢者のやりがいと生きがいといったニーズが挙げられた。

農業分野では、後継者不足、福祉とつなげる方法がわからないという課題と、働き手の確保、JAによるマッチングというニーズが挙げられた。

検討を進める上での注意点としては、農業、福祉がWIN-WINの関係であること、生きがいと工賃向上は区別して進めるという意見があった。

また本検討会議の開催にあたり、各分野が理想とする農福連携のかたちについて、事前にいただいた意見に、A委員からは農福連携の推進、強化、継続のためには、ハブ的な窓口が必要という意見、B委員からは事業所の畑で農作物を栽培・出荷販売する、マルシェに参加するという意見があった。

そのような意見から、事務局としては、まず、農業と福祉をつなぐことが大切であると考え、JAを中心とした連携の仕組みづくりを考えている。

その仕組みづくりについて、本日、委員の皆様の意見を伺いたい。

(A委員)

農業は天候や農作物の育成の状態など、いろいろある。また、自分たちは防府にどのような農家があるか知らない。今現在、当事業所が、農業を一緒に行っている事業所には、コーディネーターのような方がおり、そこに連絡すれば話ができる。そのため、農家が連絡をし、連絡を受けたところが、我々、工賃の向上や生きがいといった役割を果たせるところ（事業所）に振り、またそれを調整する役割がないと機能しないのではないかという思いと、どこに連絡すればよいか、短時間、長時間などの課題もあったので、それらの調整を担える機関が一つあると進みやすいと思い意見を挙げた。

(B委員)

事前の意見として、当事業所で取り組みやすい内容を箇条書きにさせていただいた。それをどのように農業分野や障害分野と連携していくのか、この会議でいろいろな意見を聞きながら皆さんと実現に向けて取り組んでいきたい。

(C委員)

現在、JAでは農福連携に関しては、個別対応している。皆様の意見のように、農業者の繁忙期の作業ニーズ、働き手のニーズをマッチングする場や媒体が必要と思うので、JAとしても、できるだけ協力し、そういった提供ができればと思う。

(D委員)

農業分野と福祉分野のマッチングがすごく大事であると思う。問題はコーディネーター、窓口をどこが行うか、今、JAという案が出ているが、JAが行うにしても、行政側が行うにしても、これから仕組みを作っていく上で、この機能は絶対に必要である。

農業分野の人も、福祉の方にどの程度の作業をしていただけるのか、ほとんどわかって

いない。逆に福祉の関係の方も、自分のところで行っている農業作業はわかるが、実際に農家や農業法人がどのような作業をしているのか、文章で書かれたものを見せられてもわからないのではないかと。マッチングが大事ということで、事前に、両方の作業の様子がわかる短い（2～3分程度の）動画のようなものがあればわかりやすいのではないかと。農業者側からも、障害のある方の作業の様子が見られる動画があれば、わかりやすい。これからどのような体制にしていくかという中で、動画なども候補に入れると良い。

（E委員）

今、実際、当事業所でも畑作業はしてはいるが、例えばどのように作ったらよいのか、その後どうしたらよいのか、それをだれに相談したらよいのか、全くわからない状態で、自分たちなりに考えていることが非常に多い。その為、どこで情報を共有できたり、知れたりするのか、そういったものが明確になると、色々幅が広がっていくのではないかと感じている。実際にお互いがどこまでできるのかということも、情報の共有ができることによって、この連携が進んでいくと思うので、情報発信する場などができると良い。

（F委員）

皆さんの意見のとおり、マッチングというのはとても大切だと思う。

また、農業に関わっていない事業所も多く、これから農業を考えている事業所もあると思うので、農業とはどんな作業（仕事）があるのかということを知りたい。どのような障害の方がどのような働き方をしているのか、どのような状況なのかということを知って協議していくことが、大切である。動画を見たり、互いに実際の現場を見学するなどしていく必要があると思っている。

全国には、農福連携が進んでいる地域もあると思うので、どのように取り組んでいるかというような情報があれば、知識や知恵をもらえるとと思うので、情報を集めて、共有することでも大切である。

（G委員）

コーディネーター的なマッチングは絶対に必要であるが、農業の細かい作業内容を分ける人と、福祉サイドのできることをまとめる人が、同じ人というのは難しいのではないかと。両方に精通していなければならない。それぞれで合致させながら、マッチングさせていくことが現実的である。

当事業所でいうと、園芸作業という形で苗などを作っているが、自分のところで行う作業や、先ほどE委員が言われた情報ややり方の連携も農福連携であるし、実際に農業をされている方たちのところに作業に行くことも農福連携である。どのような連携をするのかということもこれからの課題である。

議事 2 その他について

（1）次回の協議事項、（2）次回の開催日について

【事務局説明】

今回の協議では、本日の意見をもとに仕組みや体制づくりに取り組み、令和5年度の農福連携防府モデルの開始に向けて、9月には予算計上できるように進めていきたい。

今回の開催日については、後日日程調整を行うので協力をお願いする。

———— 質疑・応答 ————

(D委員)

どのような仕組み、体制になるかにもよると思うが、当該事業の予算規模はどの程度になるのか。

(事務局)

内容によって予算規模も変わってくる。例えばマッチングが大事であるということで、マッチングをするにあたり何が必要なのか協議を進め、その協議内容により、予算額を計上する。当検討会議の意向に沿って進めたいと考える。

(E委員)

マッチングやコーディネートの話があったが、農業とどのように繋がっていくのか、実際に、高齢福祉分野、障害福祉分野がどのようなことを求めているか、どういったことを知りたいと思っているのか、具体的にわかるとよい。当検討会議には、実際に高齢福祉分野では二つの事業所しか参加してないので、二つの事業所の考えしか出てこない。実際に防府市には多数事業所は存在しており、デイサービスには通所連絡協議会があるので、そういったマッチングするにあたっては、知りたい情報がどのようなものか分かれば、例えばアンケートを出すなど、いろいろな形で情報を吸い上げることができる。逆に、こちらから、知りたい情報を挙げて、それぞれ情報を出し合うと、マッチングに向けて、いろいろな情報の共有であったり、相談ができたりすると思う。

(会長)

事務局ではアンケートの実施を検討しているか。

(事務局)

アンケートの実施は考えていなかったが、通所連絡協議会があり、話をさせていただくことができるのであれば活用させていただくと良いと考える。

(E委員)

活用できる。今防府市に60ヶ所デイサービスの事業所があるが、会員事業所は42箇所。情報の発信は会員事業所限定になってしまうが、アンケートや調査ものであれば、全ての事業所に出すこともできる。

(F 委員)

障害の事業所についても、市内の就労系の事業所であれば、部会があるので、情報提供し、意見をもらうということ是可以する。ただ、生きがいの部分になると、生活介護の事業所などにもニーズがあると思うので、市で情報を拾い上げていただきたい。

(事務局)

本日、色々な意見をいただき、各事業所がどのようなことを望んでいるのか、農業サイドからはどのような希望があるのかということを取りまとめていくかたちで、防府市モデル事業に結びつけていければと考えている。その中で、まずはコーディネートの仕組み作りを防府モデルとして、進めていきたい。

閉会
